



西土第 547 号
平成20年10月21日

国土交通省道路局長 殿

西原町長 上 間



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたみだしのことについて、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

沖縄県 西原町

国道・県道については、地域の主要幹線道路となることから、調和のとれた整備計画をするために、国と地方が協力しながら総合的に計画を推進するべきと考えます。

②-1 地域の現状と抱える課題

沖縄県 西原町

○現状

本町は、中城港湾マリンタウンプロジェクトのなかで臨海域の商業・レクリエーション、レジャー空間の形成や工業地域の拡大をめざしています。町は県からの用地買収や基盤整備(道路等含む)で2007年度までに約75億円を投資してきたマリンタウン東崎(約60ヘクタール)は、すでに工業団地や住宅用地が完売し、07年に開園した西原マリンパークもビーチやバーベキュー棟などの利用者が年間25万人に上がっています。また、約120社の各種事業所が集積する工業専用地域では、南西石油を買収したペトロブラス社が1千億円規模を投資して施設を増設するなど整備計画を発表し、関連産業に与える経済効果が波及すると期待されています。しかし、臨海域へのアクセス道路が整備されていないため工業地域への通勤・輸送車両が周辺集落内の狭小な域内道路を通過するなど大変危険な状況が続いています。

○課題

臨海域へのアクセス道路として、主要幹線道路に位置づけられている国道329号与那原バイパスの早期整備及び中城地区への延伸を図ることにより、通過交通と域内交通を分離し、地域の交通安全の確保・交通渋滞の緩和・地域観光・地域経済を網羅した地域の振興発展に大きく寄与するものと考えます。

②－２ 地域の目指すべき将来像

沖縄県 西原町

本町では、那覇・浦添や中南部地区との結節する地理的条件に、県道浦添西原線や国道３２９号与那原バイパスなど主要幹線の整備に伴う利便性の向上などマリンタウン東崎の将来性を見据え、「那覇空港に最も近いリゾート」として発展させる計画に取り組んでいます。特にマリンパークはビーチと公園、スポーツ施設の機能を一体的に併せ持つのが特徴で町民や県民の地元利用を主体に「中北部に行かずともビーチパーティーができる地域密着型」のリゾートと位置付けています。また、経済波及効果が高い製造業の振興が長年県全体の課題となる中、製造業の集積が突出している県内有数の工業団地を持つ本町では、地方税収や雇用効果のほか、近年新規立地企業が共同して特産品開発に取り組むなど、企業集積の効果が拡大しています。ペトロブラス社の進出も決まり、地域経済や雇用面でも貢献が期待されています。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

沖縄県 西原町

○重点事項 ・地域活力の向上	○代表事例 臨海域へのアクセス道路として、主要幹線道路に位置づけられている国道３２９号与那原バイパスの早期整備及び中城地区への延伸。	○期待する効果や評価等 那覇・浦添や中南部地区との結節する地理的条件に、国道３２９号与那原バイパスなど主要幹線の整備に伴う利便性の向上により、人や物の流れが活発化していくと考えられ、臨海域の商業、工業関係の産業が集積し、関連産業に経済効果が波及すると期待されます。	○その他
------------------------------	--	--	-------------